

多久東部太鼓保存会

▼体育館中に響きわたる和太鼓の練習



魂を込めて太鼓を打っていききたい！

『多久東部太鼓保存会』は、平成23年4月に設立し、9月より練習を開始しました。会員は小学1年生から60歳まで総勢24人。親子で参加している方もいます。週3回月・水・金曜日夕方5時から、子どもも大人も一緒に、東部小体育館で練習に励んでいます。和の伝統文化である和太鼓を通じて、礼儀・想像力・生きる力を育み、ひいては、ふるさとの活性化に寄与する目的で活動をしています。

始めたときは全員素人。大太鼓・中太鼓・締太鼓など20台を揃え、両子太鼓浮立保存会の横尾昌子さんに指導をしてもらっています。昨年のクリスマス会で初めて1曲を披露。その後、曲数を増やしたり、公演を重ね、6月の元気玉まつりでも、私たちの演奏を市民のみなさんに届けることができました。

代表の石丸さんは「今後も魂を込めて太鼓を打っていききたい。そして太鼓を打つ機会を増やしていきたい」と熱く語り、興味のある方の参加を待っています。

☎ 代表 石丸哲也 ☎090-3608-4927

●連載16● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『龍造寺一門の名家 瀬田家展』

瀬田家は元々龍造寺姓であり、元亀元年（1570年）龍造寺長信が梶峰城に入城した際、長信に従って多久へやってきました。龍造寺石見守を名乗り、長信とその子家久（後の多久安順）のもとで活躍していました。

佐賀藩の藩政が鍋島氏に移ってのち、慶長13年（1608）、龍造寺家久が徳川家康に駿府城の普請を命じられたことをきっかけに、多久姓を名乗るようになります。そして家久は駿府からの帰途、龍造寺石見守に瀬田を姓とするよう命じました。これが瀬田家のはじまりです。

多久町の石州分は、龍造寺長信から龍造寺石見守（石州）が采地として賜ったもので、石州の采地=持分ということで、石州分の地名の由来となっています。

郷土資料館では、瀬田家のご協力をいただき、瀬田家に伝わる貴重な資料を展示しています。ぜひご覧ください。



◀瀬田家の紋「十六日足」入り軍扇

多久市郷土資料館ミニ企画展

龍造寺一門の名家 瀬田家展

会場 / 多久市郷土資料館 3号展示室

会期 / 7月6日(金)～9月23日(日)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

慈悲のころ 教えし祖母の 顕ちてくる

かすみ草咲く 季の巡れば

浦野 嘉恵

外面の よき夫なれど 我が家では

佛頂面 でわれを悩ます

福島那智子

母の日に 娘の プレゼントの 紅い花

子を持つ 幸の わきでる 夕べ

梶原恵美子

特攻隊の 慰霊に 来れば 浴槽は

バラにうずまり ぜいたく と思う

本田 静香

雑言を 浴びせる 議員に たまりかね

電話かけ合う 昭和 一桁

尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

土砂降りの 後の 青空 濃紫陽花

不二見恵美子

四半分 あれば 西瓜を 老い 二人

森山 抱石

老いらく の くりごと 多し 梅雨 ごとり

納富 芦風

夫の 忌や 友の手紙の なつかしき

野田キヌ子

節電に 待合室の 古団扇

田中久美子

川柳

《多久市川柳会 互選》

背負う 罪 いじめた子にも 重かるう

高塚チカ子

雨あがり そっと さわやか 虹が見え

武富よう平

いつからか 道が 違った 友の 仲

古賀ちひろ

還暦も ニックネームで 呼ぶ 仲間

猪ノ口 昭子

一人ずつ 友を 亡くして 高齢者

西山 残月